医療最前線 Dr リポート あすへの提言 212

歯周病とその治療 ②

日本大学松戸歯学部長
歯周治療学講座教授
小方 賴昌 先生

日本大学松戸歯学部は、歯科学を「口腔科学（Oral Science）」と捉え、医学の一分科としての教育を展開。最前線で活躍する歯科・医科のスペシャリストに、医療現場の現在と未来について連載でリポートしてもらう。

Doctor Report

嫌気性菌の増殖とバイオフィルムの形成

歯と歯肉の境界の歯周ポケット内のプラーク細菌が、歯周病のリスク因子のであることを前回説明しました。歯周病の発症と進行には、ポケット内のプラーク量の増減だけでなく、プラーク中の細菌の質の変化、空気を嫌う嫌気性菌の増殖が関係します。

さらに、ポケット内で細菌同士が凝集し、自身が産生する糖に包まれてバイオフィルムと呼ばれる集塊を形成すると、その中の細菌は白血球や抗体などの攻撃、抗生物質等から防御され、歯周病が慢性化する要因になります。

全身疾患への関与

バイオフィルムが集塊のまま剥離し、気管を通って肺に達すると、肺炎の原因となります。一方、食道を通って胃と腸に達すると、腸内細菌叢のバランスを乱し（ディスバイオーシス）、全身に様々な症状が出現することがわかってきました。

ポケット内のプラークが増加すると、プラークに対する生体の免疫応答として、炎症がまず歯肉（歯肉炎）に、引き続き顎の骨（歯槽骨）や歯の根と歯槽骨を繋ぐ歯根膜に広がります（歯周炎）。

歯の周囲の炎症組織で病原体に応答して、インターロイキン-1β（IL-1β）や腫瘍壊死因子（TNF-α）等の炎症性サイトカインが産生され、炎症の拡大や糖尿病等の全身疾患に関係することがわかってきました。

歯石の種類と除去法

歯ブラシと歯間清掃用具等の使用で歯肉の炎症が軽減すると、まず歯石除去（スケーリング）を行います。歯肉の上の見える部分に付着した歯石を歯肉縁上歯石、歯周ポケット内の根面に付着した歯石を歯肉縁下歯石とよびます。

歯肉縁上歯石は、白色または黄色で柔らかく、超音波スケーラーや手用スケーラー等で簡単に除去できますが、歯肉縁下歯石は手探りでの除去になるため、完全に除去することは困難です。

ポケット内のプラークや歯石中の細菌毒素は、歯根表面のセメント質中に浸透しており、毒素の除去のために、歯根表面の洗浄や一層削り取る等の操作が必要です。これを根面の滑沢化（ルートプレーニング・SRP）とよび、技術と時間を必要とします。

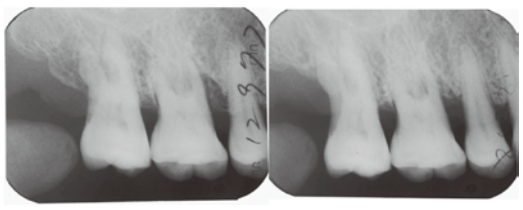
歯周炎による歯槽骨の吸収が少ない場合（軽度歯周炎）は、SRPが完了するとほとんどの症状は軽快します。

歯周外科治療を必要とするケース

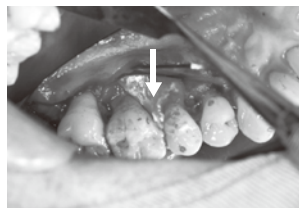
一方、プロービングポケット深さが6㎜以上で、歯槽骨吸収が著しい場合（中～重度歯周炎）は、歯周外科治療が必要です。ポケットに近接した炎症歯肉を一層切除し、汚染された歯根面のSRPを行い、除染されたポケット内面と歯根面を密着させ、付着させてポケットを浅くすることを目的に歯周外科治療が行われます。

歯周炎による歯槽骨吸収が認められる場合は、骨の一部を削除して形態修正をしたり、骨欠損部に骨移植を行う場合もあります。骨吸収部位は、炎症性肉芽で満たされているため、肉芽を完全に除去し、骨が再生するスペースの確保のために、歯肉と骨欠損部の間に再生誘導膜を挿入する組織再生誘導法が行われています。

■日本大学松戸歯学部付属病院☎047・360・7111（コールセンター）。



組織再生誘導法の術前（左）、術後（右）のエックス線の比較



再生誘導膜を挿入した術中写真

書の力

第十三回

『游藝』小坂奇石

42.0×69.5㎝ 一面
昭和47年頃
成田山書道美術館

こちらは「ゆうげい」と読み、芸にあそぶことです。「藝」は「教養」と置き換えても良いでしょう。藝の字は、複雑な字画を連続させてひとおもいに筆を運び、特にかすれを際立たせています。一見勢いを感じるようですが、その線はなぐり書きのようないい加減さはなく、紙面に食いこむような、落ち着いた趣です。二文字の墨の質量や濃淡が異なるようでいて、その呼吸は一貫しています。

この作品を書いた小坂奇石は徳島に生まれ、その故郷や大阪・奈良を舞台に戦後の書壇を牽引した書家として知られています。書風は王羲之や顔真卿、米芾、王鐸（いずれも中国の名筆）などの古典を渉猟（広く探し求めること）したその先に、墨跡の持つ気韻（気品や風格のある趣）を昇華させました。自らを「線の行者」と称したように、書の本質を線に見出そうとしました。

墨跡とは筆で書かれたもの全般を指しますが、日本では禅僧の書を指すことが多く、禅林や禅の精神と結びついた茶の湯の世界で珍重されてきました。千利休により大成されたわび茶の世界では、茶室に短冊や掛け軸にした墨跡を掲げ、書の技巧のみならず、筆者の人間性をも含めて鑑賞してきたのです。

墨跡のもつ鋭い線には、書き手の力が沈潜（沈み隠れること）し、鍛錬による精神性が表れるのでしょう。「高い精神を高い技術で表出する」ことを理想とした奇石もまた、そうした墨跡に魅せられ、自身も書作への強い思いや姿勢をこの「游藝」に託したようです。ちなみに墨跡のような線質の力強さや奥行きは写真版ではなかなか伝わりません。線の持つ純粋な引力を、ぜひ実物を目の前に見て味わっていただきたいと思います。

成田山書道美術館では今月26日（土）より、こちらの作品を含む新収蔵の小坂奇石作品39点を初めて一堂に公開します。成田山公園を紅白に彩る「梅まつり」とともにお楽しみください。

（学芸員 谷本真里）

文学の窓〈漱石と三部作〉

放課後の黒板消し 61

K太せんせい

夏目漱石は明治から大正時代にかけての文豪として今を生きる高校生が読んでいるのです。年以上前の作品を現代文も有名ですね。近年（2014年）には代表作の一つである『こころ』を当時連載していた新聞上で再掲する連載100周年のイベントも行われました。また、漱石生誕150年を記念して、2017年には新宿区に「漱石山房記念館」が開館しました。

現在の国語の教科書では『夢十夜』や『こころ』が掲載されています。100のだ」という表現に、カッコ良く言っているけど、相思相愛が理想ということなら同じだな、と思ったり……授業ではワイワイ感想を持ちながら読み進めます。

さて、作品を読むときに大事な視点の一つがテーマです。漱石作品にはこのテーマを追う一つのヒントがあります。それは「三部作」と呼ばれるくくりがあることです。

実は、夏目漱石が小説作品を書いた時間は『吾輩は猫である』からわずか10年間ほどです。その中で『三四郎』『それから』『門』を前期三部作、『彼岸過迄』『行人』『こころ』を後期三部作といいます。

三つの独立したものが互いに関連しながら一つのテーマを追う三部作。前期三部作では人間の自我や愛がテーマ、後期三部作ではより人間の孤独や不安などに焦点を当てた作品になっています。後期は特に我執（自分だけの狭い考えにとらわれること。利己主義＝エゴイズムに通じる）が追究されています。主人公たちは作品を追う毎に、自我に苦悩し、狂気に陥り、遂には遺書を残すに至るといった姿で描かれていきます。

『こころ』の中で最も有名な台詞「しかし君、恋は罪悪ですよ」の意味するところとは……。漱石が残したテーマと重ねることで紐解いてみましょう。

■K太せんせい
現役国語科教師。教育現場のありのままを伝え、読書案内なども執筆する。

MASARUのタロットよい

【 】… タロットカード
★ … ラッキーアイテム

2月2日～3月1日

1月生まれ
恋人・正】役割を分担することで効率アップし対人運が活性化。苦労を分かち合って特別な関係へと進展も。遠慮せずに話せる相手を大切に。★香水

2月生まれ
【星・正】相手に好印象を与えられるとき。褒められたら過剰な謙遜はせず落ち着いた受答えを。あなたの得意分野で活躍させてもらえる予感。★水筒

3月生まれ
【吊るされた男・逆】スケジュールにゆとりを持たせることで運気好転。行動を焦らない分、周囲の人を気遣えます。助け合いを心がけて正解。★合鍵

4月生まれ
【正義・正】嘘に敏感なとき。面白くてノリがよくても、相手次第ですぐに意見を変える人とは距離を置くのが◎。不信感を見過ごさないで。★充電器

5月生まれ
【太陽・正】自己投資が成功しやすいとき。必要を感じるものは長く悩まずに早めに手に入れるのが正解。あなたの行動を拡大してくれる暗示。★手袋

6月生まれ
【塔・逆】不安に感じている物事を放置していると、予想以上のトラブルの原因となる暗示。まずは信頼できる人に相談することから始めて。★ハサミ

7月生まれ
【戦車・逆】空回りを起こしやすく大胆な作戦ほど裏目に出る恐れあり。状況をよく観察し、成果は焦らないで。誠実さで勝負するのが正解。★栓抜き

8月生まれ
【法皇・正】周囲の意見を受け入れて可能性拡大。厳しい忠告であっても反発せずにじっくり向き合えば大きな気づきがある予感。心を開いて。★財布

9月生まれ
【世界・正】知人同士を繋ぐことで未来が開ける暗示。個人では実現できなかったことにも挑戦できる可能性大。憧れの人と大接近する予感も。★封筒

10月生まれ
【運命の輪・正】住居の改善に取り組むと吉。理想の物件や家具に出会う予感。また今度と思っていると好機を逃すことに。勇気ある決断を。★タオル

11月生まれ
【女帝・正】自分へのご褒美を優先して運気活性。他者に気を遣う必要のない一人行動が◎。本物に触れることで感性が磨かれ社交性もアップ。★電池

12月生まれ
【悪魔・正】コンプレックスと上手くつきあっていく意識を持って。落ち込みを感じたら深追いせずに気分転換を。自分に完璧を求めないこと。★切手